

不登校についての体験談（本人 1）

不登校の時期：小5～小6

不登校の期間：約2年

不登校になったきっかけを教えてください。

引っ越ししてきたばかりの時期で、周囲の生徒と人間関係があまり上手くいかなかったこと、塾で疲労していたことなどが原因。

学校に行かないときは、どのように過ごしていましたか。

勉強、読書など。

その時の気持ちや考えていたことを教えてください。

特に何も思わなかった。
漠然とした不安はあった。

保護者や先生にしてほしかったこと、してもらってうれしかったこと、いやだったことを教えてください。

親がいろいろな本を図書館で借りてきてくれたことが嬉しかった。
この時期はかなり本(主に小説)を読んでいたと思う。

友人や大人（保護者・先生以外）にしてほしかったこと、してもらってうれしかったこと、いやだったことを教えてください。

引っ越す前の友人と遊んだときは素直に楽しめた。

学校に行かなかったことについて、今感じていることや考えていることを教えてください。

小学校での学習に意味があったとは思っていないので不登校について全く後悔はない。一方、中学、高校では数学や物理について議論し合える友人を得ることができ、自分はそれを非常に楽しんでいたので学校に通う意味は大いにあったと思う。自分は現在大学生だが、COVID-19の感染拡大のためキャンパスに通えない中、改めて勉強において大切なのは先生に教わることよりも学生同士で教え合い、議論することだと切に感じているので、不登校の状況にある人たちでもその恩恵が享受できるような環境整備が必要であると考えます。

学校に行っていない人や行かない人に対してのメッセージをお願いします。

各人に様々な事情があるので必ずしも学校に行くことにこだわる必要はないと思う。しかし勉強自体は非常に面白いものであり、本来決して強要されるようなものではない(schoolの語源であるギリシャ語のscholeが本来“余暇”という意味であることは有名)ので、自分の興味に基づいて自由に学んでほしい。